かぐらおか

（題字は初代学長　山田守英氏）

第 149 号

平成24年５月30日

編集　旭川医科大学
発行　教務部学生支援課

「菜の花畑」（滝川市 丸加高原）　（写真撮影：旭川医科大学写真部）

2012年度入学式　学長式辞
　新入生を迎えて……吉田　晃敏……2
医学科新入生を迎えて……林　要喜知……5
看護学科新入生の皆さんへ……木村　昭治……6
新入生を迎えて
　医学科第６学年　三武　晋……7
　看護学科第４学年　佐藤　綾香……7
旭川医科大学に入学して
　医学科第１学年　稲村　美子……8
　医学科第１学年　渡部　司……8
　医学科第１学年　天野　明彦……9
　医学科第１学年　酒井　美穂……9
　看護学科第１学年　飯田　愛生……10
　看護学科第１学年　細野　健人……10
平成24年度 入学式 ……11
医学科入学式　集合写真……12
看護学科入学式　集合写真……12
平成24年度 医学科・看護学科新入生合同研修会 …13
授業評価……14
留学助成制度を利用してアメリカの大学病院へ
　……天野　太史……40
医学生のための英国短期留学を終えて
　……徐　悦……41
教員の異動……42
医大祭2012“AMU's×AMUse”開催に向けて
　……小林　大太……42

2012年度入学式　学長式辞

新入生を迎えて

学　長　吉　田　晃　敏

春とは言え、まだ寒さが残るこの旭川の地で、本日、ご来賓の皆様並びにご父母の皆様のご列席のもとで、本学の入学式を無事に迎えられる幸せを、今、改めてかみしめております。

東日本大震災から１年。被災地では、未だ多くの方が、厳しい状況下に置かれておりますが、新たな年、この2012年を、日本の復興元年として、共に歩んで行ければと願っております。

さて、本日晴れて旭川医科大学の門をくぐった、医学科第一学年112名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、そして、看護学科・第三学年編入生10名の皆さん、ご入学おめでとう。

本学を代表し、皆さんを歓迎します。

医師を志す人、看護職者を目指す人、あるいは研究者を目指す人･･･。新入生それぞれが、夢を描いてこの場に臨んでいる事と思います。

今日からは、ここ、旭川医科大学が、皆さんの「夢の舞台」です。私達教職員は、今日から、皆さんの「夢」を応援して行きます。「共に学び」、「共に議論し」、「共に励まし合い」、そして「助け合い」ながら、21世紀を担う、「良識ある医療人」を目指して、共に切磋琢磨して参りましょう。

さて、あの大震災以降、私達は、それぞれの場にあって、命の重み、そして生きる事の意味を、何度となく問い続けてきました。

皆さん達も、医療人となるに当たって、「生きる事の意味」を思いめぐらせて来たのではないでしょうか。

ご承知の通り、今、医療を取り巻く現状には、非常に厳しいものがあります。その根幹は、医師不足、看護師不足です。

国が、医師の増員へと大きく舵を切った事で、確かに医師は増えています。しかし、「医療の格差」は、益々広がっています。ここ北海道では、至るところで診療科の廃止や休診が相次いでおり、また、多くの病院が看護師不足で悩んでいます。「志ある医師」、「志ある看護師」が、今求められているのです。

思い起こせば39年前、本学が産声を上げた昭和48年。その当時から既に、都市部と地方との間の、「医療格差」が拡大しつつありました。そんな中で、「地域医療を担う新たな人材育成」という高い理想の下、国が設置した大学･･･、新設医科大学の第一号、それが、「旭川医科大学」です。

第１期生100名、その中の一人が私でした。

以来39年。必要な時に、必要な医療を受けられる北海道になって欲しいという、あの日抱いた夢は、学長になった今も抱き続けています。

そのために、本学は入試制度を抜本的に改革し、特に北海道在住の若者達に大きく門戸を広げ、チャ

ンスを広げました。今年度の医学科入学生には、実に約７割の北海道出身者が占めています。本学は、皆さん方に、ここ北海道の地で、医療のために汗を流してほしいと願っています。

加えて、看護学科の皆さん、看護師も事情は同じです。入院患者７人に対し１人の看護師を配置する、いわゆる「７：１看護体制」を国が推奨した事で、看護師の人気は一気に高まり、その結果、今や全国各地で、看護師はひっぱりだこです。

旭川でさえ、看護師が足りず、地方の病院は更に深刻です。

本学の病院では、「７：１看護体制」の承認を取るために、100名を超す看護師を増員しました。

このような、極めて深刻な状況にある中、皆さんは看護師を目指すのですから、ここで掴んだチャンスを、地域医療のために活かしてほしいのです。

ところで、入学された皆さんは、「もう自分の夢が叶ったんだ」と、安心している方もいるでしょう。

しかし、ここに落とし穴があります。

これから申し上げる事は、ここ数年、成績不良により留年する学生が増えているという残念な現実です。

昨年の医学科１年生は11名が進級出来ませんでした。一昨年の１年生は14名、その前の年の１年生は10名留年しました。医学科では、10人に一人の割りで留年しています。特に、入学試験で良い成績を取った学生も留年しています。これが現実です。

医療の学びは、覚えるべき知識は膨大。その上、医学は日々進歩していますので、高校時代とは桁が違う、厳しさが要求されます。

すなわち、皆さんは、旭川医科大学に入学した事で夢が実現したのではなく、単に、夢の実現に向けた「スタートラインに立った」･･･、いや、「スタートラインに立つ資格が与えられた」だけに過ぎません。このことを忘れ、大学に入った途端に、手綱を緩めてしまう学生諸君が、あまりにも多いのが、私は残念でなりません。

大学は、教師が、手取り足取り教えてくれた高校、予備校とは、全く違います。自らが目標を定め、自ら道を切り開いて行かない限り、前には進めないのです。

何よりも本学は、国立大学です。皆さんは、国民の皆さんからの「税金」を使わせて頂き、「少ない自己負担」で、「最高水準の教育」を受けるのです。このことを、今日この場で、しっかりと自覚して下さい。

一方、本学では、本気で勉強しようとする学生諸君のためには、最高の環境を整えています。

図書館を整備しました。地域医療について学べる環境も揃っています。

最先端のネット環境も整っています。共に学ぶ仲間同士で気軽に集える、学生サロンもあります。

講義や実習を行う講義実習棟を、これから２年間かけて、全面的に新しくして行きます。

また､経済的な理由で不安を抱えている学生には、「奨学金制度」も充実しています。ぜひ相談して下さい。

また本学には、学生が、外国の大学等と交流活動やボランティア活動をする場合に、それを助成する制度もあります。

このように本学では、勉強しようと思う学生諸君にとっては、様々な設備そして様々な制度が充実しています。

しかしながら、先程も申し上げましたように、１割の学生達が留年しているのが現状です。そこで、今年度からは、学生諸君の詳しい成績を、父母の皆さんにも通知する事と致しました。父母の皆さんも是非、お子さん達の成績に、遅きに失せぬ様、ご注

意願います。この場を借りてお願いします。

私は、皆さんが医師や看護職者になりたいという、入学試験の面接試験で見せた、やる気、志は、本物だと信じます。

私達に見せてくれた熱い思いを、どうか忘れずに、現実のものにして下さい。

皆さんが、積極的に自学自習することで、知識や情報を得、自ら考える姿勢を養うことを願います。その努力なしには、決してゴールを踏む事、卒業は出来ません。

さて、皆さんのために用意したカリキュラムも、年々進化しています。これらの詳しい内容は、後日、ガイダンス等で詳しく説明致します。

最後に、基本的な「コミュニケーション能力」について、お話し致したいと思います。医師として、看護職者として、仮に最高の技術を身につけたとしても、他者とコミュニケーション能力に欠けるならば、その人は、最善の医療人とは言えません。

友人や先輩、そして教員に対する「挨拶」一つを取ってみても、その人のコミュニケーション能力が、見えてきます。

この、最も基本的な「挨拶」の意味するもの。それは、何でしょうか？
他者への配慮です。

壁にぶつかった友人、自分のために時間を割いてくれた先輩、そして、自分達のお世話をしてくれている教職員への挨拶。その中に込められた思いは、他の人への配慮です。

大学は、共に学ぶ場であると共に、時に競い合う場でもあります。しかし、どんな場であっても、他者を気遣う「コミュニケーション能力」があれば、それは、卒業後も皆さんにとって、かけがえのない武器になると信じています。

確かに、適切な医療技術が、そして適切な薬が、病や傷をいやします。しかし、他者への配慮があってこそ、その技術が花開き、その薬が生きてくるのです。だからこそ、「医は人なり」なのです。

さあ！将来の医師・看護職者を目指す皆さんへ寄せられる社会の期待は、未だかつてない程に、高まっています。

これをチャンスと捉え、国民の期待に応えられる医師・看護職者を目指して、日々、力を尽くしてほしいと強く願います。

皆さん一人一人の活躍を、心から祈念し、学長からの歓迎と、激励の言葉と致します。

平成24年４月９日

旭川医科大学 学長　吉田　晃敏

医学科新入生を迎えて

医学科第１学年担当　林　　要喜知

自信と意欲に満ちた卒業生の門出を３月下旬にお祝いし、４月上旬に初々しくも晴れやかな皆さんの笑顔を拝見しますと、また、新たな医学生の学びが始まったと実感いたします。医学科新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学式後には、ガイダンス、オリエンテーション、さらには、宿泊研修などがあり、始めの１週間はあっという間だったでしょう。しかし、翌週から実際に授業に出席していくことで、次第に生活のペースがつかめてきたことと思います。ここでは、私なりのアドバイスを幾つかさせて頂きます。

１．先ずは、クラスメートとの繋がりを大切にしてください。入学前は同じ学科をめざす受験生は受験競争のライバルという思いだったかもしれませんが、入学後の同級生は仲間であり、生涯の友となることが多いものです。今後の人生で皆さんが築いてくネットワークの根幹をなす貴重な同窓生となるでしょうから、切磋琢磨によってお互いを高め合う良きライバルとなって下さい。実習やチュートリアルではそのような切っ掛けができる授業形態ですから、学びを中心に据えながらも、先ずは同学年との横の繋がりを広め、深めてください。

２．自分自身を熱くさせる何かを見つけてください。医学部受験という目標があったからこそ、皆さんがこれまでしっかりと努力されてこられたことと存じます。今後は将来の医師像をイメージしながら、何かしら皆さんを熱く本気にさせる新たな目標を設定して下さい。そのような切っ掛けは様々なサークル活動でみつかるかもしれません。各教科内容に興味をもって先生方の研究室に出入りすると、新たな興味や関心事に触れるかもしれません。あるいは、「はしっくす」など大学の枠を越えた学生交流の場で何かに気がつくかもしれません。普段の授業内容を積極的に学ぶことは勿論のこと、さらに皆さんを熱くさせる何かをみつけ、そのことでも楽しみながら学んで下さい。

３．グローバル時代を見据え、英語（あるいは中国語やロシア語など）で仕事ができる医師を目指してください。そのためには、今から日々何をなすべきかを逆算し、コツコツと自己学習を積み重ねてほしいものです。10～20年後には、地域医療の担い手になる方にもグローバル化は必ずや大きな影響となって現われてくることでしょう。幸い本学には、優秀な語学の先生方から色々とアドバイスを受けることができます。色々な国からの留学生やバイリンガルの学生さんも周囲におられるでしょうから、きっと刺激を受けることでしょう。国際的な医学生の団体もありますし、春期や夏期休暇を利用した本学の海外渡航支援制度でチャンスをつかむことも可能です。多忙な日々が続くでしょうが、外国語も若い世代でできるだけ伸ばしてほしいものの一つです。

４．トラブルシューテイングは早めに対応して下さい。就学上の問題や健康上の問題など何かが起こることがあります。例えば、中間試験の成績が悪かった場合には、日頃の学習状況に問題があると素直に認め、即、改善のための対応策を実行して下さい。これまでの状況を放置し続けると、挽回することがだんだん大変になります。一方、体調の変化が起こった場合も同様です。ただ、身体の変調はすぐ気づくのですが、心の変調はなかなか分からないことがあります。その意味では、周囲からの協力が助けになることもあります。友人で最近大学にこなくなったとか付き合いが悪くなったなど、普段から一緒に生活をする中で何か周囲のクラスメートの変調に気がついたら、早めに保健管理センターや学年担当までご連絡ください。

自然科学入門コース（高校理科リメデイアル）の教育は４月で終了し、５月の連休明けからいよいよ本格的な学びがスタートしました。さあ、皆さん、はりきっていきましょう。皆さん全員が本学の６年間で大きく成長していくことを期待致しております。

（生命科学　教授）

看護学科新入生の皆さんへ

看護学科第１学年担当　木　村　昭　治

入学おめでとうございます。大学人一同心から皆さんを歓迎いたします。

皆さんの出身背景はそれぞれ異なり入試制度の多様性とも相まって様々な人が入学されたと思います。さらに言えば入学動機さえも様々であり必ずしも明確な目的を持たずに入学された方もいるやも知れません。いずれにせよ皆さんは旭川医大を希望し、選ばれて本学に入学してきました。皆さんの数倍の同世代の仲間が受験しながらもその希望をかなえることが出来ませんでした。加えて希望しながらも何らかの事情で大学進学をあきらめざるを得ない高校生もいたことでしょう。それは震災後の今日では特に聞くことが多くなりました。これらを考慮すると皆さんは彼らや彼女たちの分まで努力して目標を達成する義務があります。初心を忘れずこの４年間精進していただきたいというのがまず第一の願いです。勉学が得意だったものはそれをさらに伸ばし、そうでなかったものはこれを機にリセットして新たなスタートを切って頂きたいと思います。

医科大学に入学した時点で皆さんの方向はほぼ決定づけられました。その方向に沿っての努力を続けるわけですが大学で勉学する上での基本は問題点を抽出する能力、さらにそれらを解決する方法を見出しかつ実行する能力を養うことでありましょう。従ってまず分析能力や方法論、手段を学ぶのであって知識の量を増やすのみに時間を費やすべきではありません。さらに既存の知識に疑問を持ち批判的に考察する能力を養うことも重要なことです。「何故」を貫き通せばよいと思います。学習環境の中にどっぷり浸かり、それが日常化する、習慣となるということを身につけるのも最初にすべきことです。

また技術の習得も必須の要件です。医療系の大学は学問を修めると同時に特別な技術の習得という職業訓練所のような面もあります。運動部の方はよくお分かりのように、技術は各人のもともとのセンスが大きく影響しますがトレーニングによりうまくなるものです。

大学では勉学の場とともにそれ以外の場においても様々なひとと触れ合う機会があります。教室や実習場所、クラブ活動やアルバイト先、４年間は短いですがたくさんの人と出会います。この中には生涯の友になったり、在学中は言うに及ばず、卒後色々な分野に進んだ仲間に助けられたり、助けたりと交流は続くと思います。これが最も重要かもしれません。

皆さんに望むことを個人的な観点で少し述べさせて頂きましたが、はて翻って自分はどうだったのかと30年以上前を思い起こしてみると時代背景は医療人にとって今ほど厳しいものではなく、また大学と社会との関係も大きく異なり一言で言えば寛容でありました。そういう環境にあって、上で述べた項目で達成されたものは最後の部分だけであり、その感想は楽しかったということです。それでも今、何とか大学で生きていますので初めの部分はそれほど重要ではないかも知れません。ただ、時代背景が大きく違うことをお忘れなく。

４年後の輝かしい皆さんを期待しています。

新入生を迎えて

医学科第６学年　三　武　　晋

新一年生の皆さん、旭川医科大学へのご入学おめでとうございます。

旭川の景色も緑が映える季節となり、そろそろ皆さんも新しい生活に慣れてきた頃かと思います。

旭川医科大学は単科医科大学で小さい大学ではありますが、魅力にあふれた大学でもあります。実習や講義で時間をともにするクラスメート、つらいことも嬉しいことも馬鹿みたいなことも共有できる部活の先輩後輩、何か疑問や新しいことを学びたくなったときに力になってくださる先生方など、人との距離の近さがこの大学の魅力です。また、旭川という土地も、自然が豊かで景色もよく、冬は滅法寒いですが、パウダースノーが楽しめるという魅力あふれた土地です。そしてなんといっても私にとって、この大学、この土地は医者というひとつの目標をかなえるべく自身を成長させてくれた母校であり第２の故郷でもあります。

私はこの大学生活において医学講義や臨床実習のみならず、ラグビー、漢方、家庭医療、地域医療、救急医療、市中病院への病院見学、そして学会活動など様々な新しいことと出会い、その活動から多くの物を学び、沢山の人とのつながりを持つことができました。

同級の仲間にも、スポーツで好成績をおさめている人、海外留学をした人、仲間とアメリカをキャンピングカーで旅行した人、学外の勉強会に盛んに参加している人、てんぷら油で走る車を作った人など、色々な面で尊敬できる人たちがいます。

何かに熱中して頑張ること、苦しいことをやりぬくこと、仲間とのきずなを深めること、他大学との交流や勉強会など色々な場に足を運び見聞を広めたり人的ネットワークを築くことなど、この大学生活には様々な可能性があります。是非皆さんにもこの大学生活で色々な挑戦をして自身を大きく成長させていってほしいと思います。

「良き医療者」は、ひとと協力できる人、仲間を大切にできる人、患者さんの立場で問題を考えられる人、ひとの面倒をみることができる人、そして頑張り屋さんである様に思います。

部活、勉強、旅行、熱中できることなら何でも良いです。みなさんも是非大学生活を目一杯楽しんで、良き医療者としてステップアップしていってくださることを願います。

新入生を迎えて

看護学科４学年　佐　藤　綾　香

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。入学してから１カ月が経ち、そろそろ新しい環境にも慣れて充実した日々を過ごしていることと思います。大学での４年間、６年間はあっという間です。ぜひ、充実した大学生活を送っていってほしいと思います。

ここからは、私が４年間を通して体験したことや感じたことを書かせていただきたいと思います。先ほども述べたように、大学生活はあっという間です。目的もなく過ごしていると気づいた頃には国家試験が待っています。高校生の時とは違って、自分のペースで自由に生活する機会が得られた分、自分で考えて行動することがより重要となってきます。看護師になりたい、医師になりたいと目標をもってこの大学に入学してきたのだと思います。これからは、どんな看護師・医師になりたいのか、より具体的な目標をもって、または、自分はどんな分野に興味があるのかを考えて生活していってほしいと思います。実習や演習を通して自分のやりたいことがきっと見つかると思います。大学の授業だけでなく講演会などにも積極的に参加して、大学だけでなく広く関係を作ることも将来のために役立つと思います。やる気と行動力があれば、自分の興味のある分野を追及していけるところが大学の面白いところです。いまのうちにいろんなことに挑戦して、悩んだり経験したりしながら、自分の将来についてじっくりと考えてみてほしいと思います。

そうはいっても、勉強だけでなく部活動や遊びも十分に楽しんでいきたいですよね。この大学は部活動をしている人がほとんどです。私は、その中で得られる仲間はかけがえのない存在だと思っています。同期だけでなく先輩や後輩とも関わりが深く、きっとみなさんも同じような仲間ができると思います。テストや課題で忙しいことがあっても、時間を有効活用し、積極的に参加してたくさん思い出を作ってほしいと思います。

少し偉そうに話をしてしまいましたが、ぜひ大学生活に悔いを残さないように全力で学んで遊んで、素敵な医療者になれるようにお互い頑張りましょう。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　稲　村　美　子

まだ雪の降る春、私達は旭川医科大学の学生の一員となった。私は、大阪府で生まれ育ち、大阪では雪は年に数回降るか降らないかといった具合でした。なので、春に雪というのは、私にとってはかなり新鮮な光景でした。この土地でやっていけるのだろうかという不安がふと浮かびました。

そんな中、新入生研修では医学部ならではの心肺蘇生や将来役に立つ手話の実習とともに、先生方による講義をうけることで、医学部生として学んでゆくという意識を高めることができました。新たな友人もでき、これからの大学生活が楽しみになりました。皆、志が高くこれからの６年間いい刺激を受けることができると思います。

次に、私達を待ち受けていた行事は新歓合宿でした。先輩方が様々な用意をしてくださったおかげで、楽しく過ごせました。また、私達一年生が更に大学生活を満喫するために肝心な部活選びの場でもあり、私は何の部に入部するかも定まらない状況だったため、自分の向いている部を探すいい機会だったと思います。改めて、企画をして頂いた先輩方、ありがとうございます。

その次の週からは、授業も本格的に始まり高校との違いを実感しました。自己学習、これが大切だと思いました。先生方は疑問を尋ねれば、丁寧に答えを教えてくださるので、自らの意識次第で深い学習ができると感じました。

初めの一か月を通して私は旭川医科大学に入学してよかった、と心から感じています。

毎回充実した講義をしてくださる先生方に、頼もしい先輩方、そして共通の高い意識を持つ同級生達との出会いに感謝し、人々を救う医師となるという初志を忘れることなく、この大学での日々を有意義に過ごしていこうと思います。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　渡　部　　司

この旭川医科大学に入学してから早くも一ヶ月が経とうとしています。地元長野を離れ、新しい環境や人間関係に最初は戸惑いや不安もありましたが、周りの友達や先輩方は皆とても優しくすぐに慣れることができ、大学生になったという実感がようやく湧いてきました。

今年は夏以降に行われる講義・実習棟の改修工事のため、去年までは後期にあった物理実習などの授業が前倒しになり、まだ授業が始まったばかりなのに７限まで授業が入っていたり、たくさんの課題がでたりと、出だしから大忙しです。大学といえば、高校と違って授業のコマ数が少なくて一年生は楽というイメージがあったのですが、旭川医科大学は早くから教養の授業だけでなく実習や専門的な授業もびっしりと入っています。また５月にはチュートリアルや早期体験実習もあります。確かに大変ですが、毎日がとても充実しています。

部活では音楽と部の雰囲気が好きでブラスアンサンブルに、英語の話す力を身につけたいとESSに、子供が好きで子供・教育に対して理解を深められたらと育児院学習サポートに、世界を視野に入れた活動をしたいとIFMSAに入部しました。どの部活でも先輩方が優しく指導してくださり楽しく活動ができています。旭川医科大学では部活動が盛んで、多くの人が自分のやりたいことをのびのびと楽しそうに活動しています。私も大学生活でしか出来ない活動をこの６年間で思いっきりやりたいと思います。

それぞれ目標は違いますが旭川医科大学には将来社会に貢献できる医療従事者を目指す高い志を持った学生が多くいます。そしてそのそれぞれの目標を達成し得るだけの環境がこの大学にはあると思います。これからの日々の生活は勉強や部活などに追われ大変だと思いますが、自分の目指すものを見失わず、自ら学ぶ姿勢を持ち、有意義な学生生活を仲間と共に過ごしていきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　天　野　明　彦

2012年４月９日、出身の兵庫県ではありえない４月の吹雪という天候の中、旭川医科大学の入学式が行われました。兵庫出身かつ後期試験で滑り込み合格であった僕は旭川という地がどのようなところかを知らなかったので不安の心を抱きながらこの地に住み始め、入学式に臨んでいました。しかし、入学式当日の優しい先輩方による盛大な部活勧誘に始まり、入学式での吉田学長の激励、自分と同じ医学に携わりたいと思っている同級生との交友によって僕の不安は一切なくなりました。そして入学してから授業が始まるまでのガイダンス期間の色々な方々による講演会や説明会、また同級生同士で「どのような大学生活を送っていけばよいか」といった議題での討論会によって、自分が医学生であるといった自覚と医師を目指した頃の初心を再確認することができたと思います。そして、学生の本分である勉学が始まり、医学的なことだけでなく色々な教養を高めることのできる授業をうけることができていると思います。さらに実習といった、ただ聞くだけといった受け身の姿勢でなく自分で学びながらその実験・実習を行っていくといった向上心をわすれさせない授業も盛り込まれています。また、まだ始まっていないのですが５月中旬からはチュートリアルⅠといった学生たちだけでお互いが学んできたことを教え合うといった授業も始まり、その場では自分が学んだことを本当の意味で理解し、また自学自習の習慣を身に着けることができる絶好の機会だと思います。勉学に加え旭川医科大学の学生は授業だけではなく、部活動に力を入れており、ほとんどの学生が部活動に所属していて医学交流やスポーツを通じて授業では得ることができない色々なことを学べていると思います。僕も柔道部と部活動ではないがCIKに所属させてもらっており体力・精神力を高め良き医療従事者になれるように日々頑張っています。このように、自発的に色々なことを学べる旭川医科大学に入学できたことを誇りに思いこれからの学校生活の１日１日を大切に過ごしより良い医師になりたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第１学年　酒　井　美　穂

ずっと憧れていた旭川医科大学に入学して、一ヶ月が経ちました。この一ヶ月は大学生活への不安を抱えながら、新しい環境に慣れることに必死でした。

入学後すぐにあった新歓合宿では、医学科・看護学科の同期との交流だけでなく、先輩方とも話すことができ、大学の雰囲気を感じられる良い機会になりました。新歓時期にたくさんの部活を見学に行き、私は軟式テニス部に入ることを決めました。ゴールデンウィークには早速合宿に参加して、久しぶりに外でテニスを楽しむことができ、これからの活動への意欲が湧いてきました。

先日は生物実習でチャイニーズハムスターの解剖をしました。初めてのことばかりで最初は動揺してしまいましたが、医師を志す私にとっては精神的にもっと強くならなければいけないことを改めて気づかせてくれた実習でもありました。

５月からは新たな授業や、早期体験実習、チュートリアルも始まってきます。また学年が上がるにつれて学ぶ内容は深くなり、その分難しくなっていくと思います。けれどそんな時には同期や先輩方にアドバイスをもらったり、共に切磋琢磨したりしながら、自分の医師になりたいという気持ちを頑張る力に変えていきたいです。旭川医大に入学すれば医師になれるのではなく、医師を目指すスタートラインに立っただけだという話を聞きました。なので、大学側が用意してくれるプログラムに取り組むのと並行しながら、積極的な学びの姿勢を持って毎日を過ごしていきたいと思っています。

大学では様々な人と関わりを持つことができるでしょう。先生方はもちろんのこと、自分よりも多くの経験を積んできた先輩方や、幅広いバックグラウンドを持った同期もいます。知識や技術だけでなく、医師として必要なコミュニケーション能力もこの大学生活で身に付け、初心を忘れず、目標とする医師に近づいていこうと思っています。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年　飯　田　愛　生

私は高校１年生の頃から旭川医科大学入学を目標に勉強に取り組んでいました。それが達成され、今この作文が書けていることを大変嬉しく思っています。

合格発表は母と一緒にパソコンで見ました。自分の番号を見つけた時は信じられず、何度も番号を確認したことを覚えています。大学合格の実感が湧いてきた頃からは、もちろんずっと憧れていた旭川医大に入学できる嬉しさがありましたが、これからは親元を離れて暮らさなければならないという不安の方が大きかったです。炊事や洗濯など、これまであまりしてこなかった家事もこなさなければならない一人暮らしにも、１ヶ月経って漸く慣れてきたところです。

大学生活は、自分が思い描いていたものよりもはるかに忙しく、毎日あっという間に過ぎていきます。ですが、とても楽しく、今までにないくらい充実しています。大学に入って新しい友人もたくさんできたし、優しい先輩方にも出会えました。この学校に入学できなかったら、知り合えなかった人ばかりだと思うと日々感動の連続です。そして大学の講義は高校までとは違い、自ら学ぶ姿勢が大切になります。今までは、周りの人たちが手取り足取り教えてくれていましたが、これからは様々なことを自分で判断してやっていかなければなりません。楽しいことも多いですが、そればかりに目を向けるのではなく、課題やレポートなど自分が最低限やらなければならないことはしっかりやっていこうと思います。

また、この大学生活では、看護についてだけでなく、多くのことを学んでいきたいと思います。友人や先輩をはじめ、たくさんの人と関わりを持って自分の視野を広げ、今よりも一回りも二回りも成長して立派に卒業していきたいです。これから経験するすべてのことを糧にして、自分の理想とする看護師像に少しでも近づきたいと思います。

最後に、私がこうして大学生活を送ることができているのは家族のおかげであり、大学生活がこんなに楽しいのは、友人や先輩方のおかげです。本当にたくさんの方々の支えがあって今の自分があることを忘れず、感謝の気持ちを常にもって過ごしていきます。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年　細　野　健　人

推薦入試の合格発表の朝10時、私は母親と一緒にパソコンで自分の番号を確認しました。ゆっくりと画面を下に下げていき自分の番号を見つけた時の感動を忘れることはできません。まだ入学して一か月と少しばかりたっただけですが私は本当にこの大学に入れて満足しています。大学生活が楽しくて仕方ありません。その上、大学の雰囲気はとても温かく、ほかの大学では経験できなかったことだと感じています。

入学してすぐに同じ看護学科の人たちや、医学科の人たちと仲良くなることができました。それぞれが各自しっかりとした考え方やどのような方向へ進みたいのかという将来展望を少なからず胸の中に持っていて、この環境は私にとってとても魅力的でした。国立の大学へ入学することができたという実感も持てました。また、同期だけではなく旭医は本当に先輩方がいい人だらけです。新歓時期には毎回ごはんをおごっていただき、どの部活に行っても歓迎していただきました。大学のことがほとんどわからない私たち新入生に先輩方は様々なことを教えてくれました。使わない教科書をくださったりと、感謝しかすることができません。

そんな４月から５月へと月日があっというまに経つにつれて本格的に授業が始まっていきました。毎週レポートや課題があったりと時間をうまく利用していかないといけない忙しい毎日です。そしてこれらのことは「看護師」になるための道のりです。入学当初に抱いていた看護へ対する自分の気持ち、これを忘れずに大学生活を送っていきたいです。大変なことがたくさん待ち構えている４年間だと思いますが、後悔だけは絶対に残らない大学生活していきたいと思います。

平成24年度　入　　学　　式

医学科・看護学科の入学式が４月９日（月）10時から本学体育館において挙行されました。

当日はあいにくの空模様で気温も低く，恒例の団体勧誘も皆凍えながらでしたが，夢や希望に満ちた新入生を笑顔で迎えていました。

式では、医学科112名、看護学科60名、看護学科第３年次編入生10名、合わせて182名の新入生を代表して医学科　阿部　良奎さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに、大学生活の第一歩を踏み出しました。

▲入学式の模様

▲入学式の模様（宣誓）

▲入学式の模様（学長挨拶）

医学科入学式　集合写真

看護学科入学式　集合写真

平成24年度　医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成24年度医学科・看護学科新入生合同研修会が４月10日（火）11日（水）の２日間にわたり実施されました。

一日目は、９時から全員が看護学科棟大講義室に集合し、千石学長補佐の挨拶に始まり、指導教員の紹介等オリエンテーションの後、吉田晃敏学長によります「新１年生に望むこと」と題しました講演が行われました。これまでの大学の歩みやこれからの学生生活に対する楽しみや厳しさを垣間見えたことと思います。続きまして「履修上の注意」と題しましたガイダンスが教育センター蒔田芳男教授，解剖学講座（機能形態学分野）吉田成孝教授　並びに看護学講座　岡田洋子教授，黒田緑教授，望月吉勝教授により行われました。続きまして今年度はNHK旭川放送局と学生団体「はしっくす」のコラボ企画による「旭川・道北の魅力プレゼンテーション」として、旭川市内及び近郊のおすすめスポットの紹介が行われました。

午後からは、グループ毎に分かれて救急医学講座藤田智教授の指導の下に先輩学生や卒業生からの心臓マッサージの指導などの救急蘇生実習と旭川ろうあ協会のろう講師２名によります手話の講習を受け、ぎこちない動きの中にも時折笑顔も見え、少し緊張が解けて、医療現場に携わる道を選んだ者として、雰囲気を十分に味わえたところで一日目が終了しました。

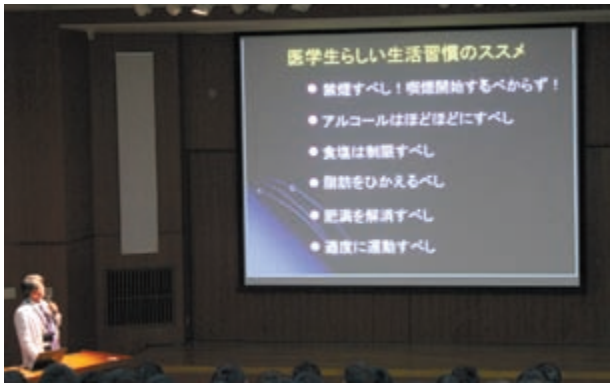
二日目の午前は、グループ毎に分かれて「大学生活をいかに過ごすか（教員・先輩・患者様との接し方）」、「どの様な医療従事者を目指したいか」という課題についての討論とグループ代表による発表会が行われました。最初はぎこちなかった討論も時間が経つにつれて真剣さを増し白熱した意見を戦わせるほどになりました。

午後からは、旭川消費者協会による「悪質商法の事例と防止策」、引続き保健管理センターの川村祐一郎教授と藤尾美登世保健師によります「健康な学生生活を送るには－ほけかんとどう付き合うか－」と題した学生生活における注意と保健管理センターの利用方法の説明が行われ、続いて本学内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」の講演，最後は，本学内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）阿部真美特任助教による「お酒との正しいつきあい方」を聞き，２日間の全日程が終了しました。

▲手話の講習

▲救急蘇生実習

▲グループ討論

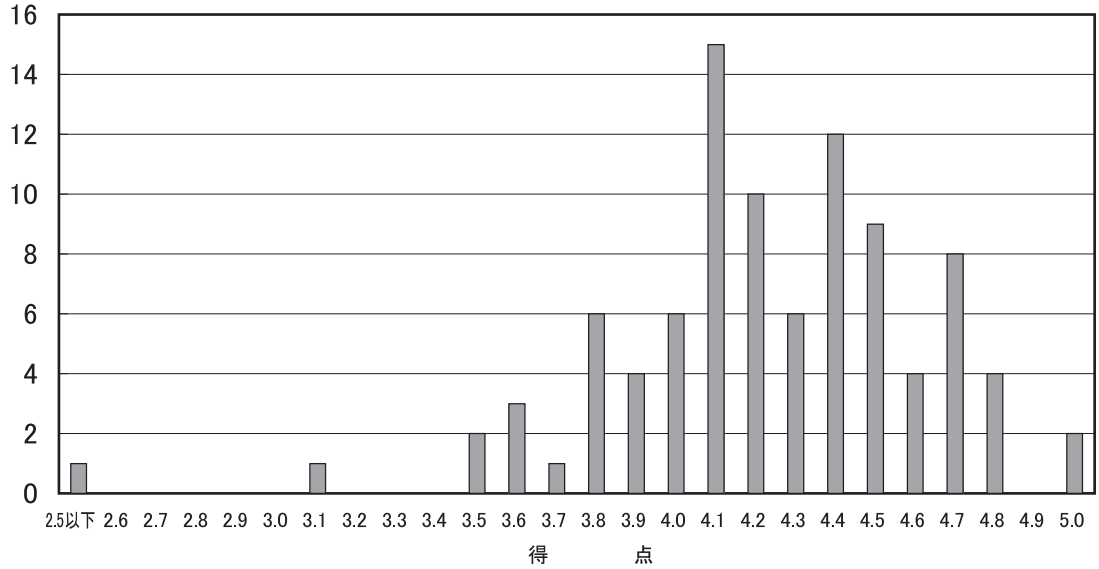


▲「医学生らしい生活習慣のススメ」長谷部直幸教授

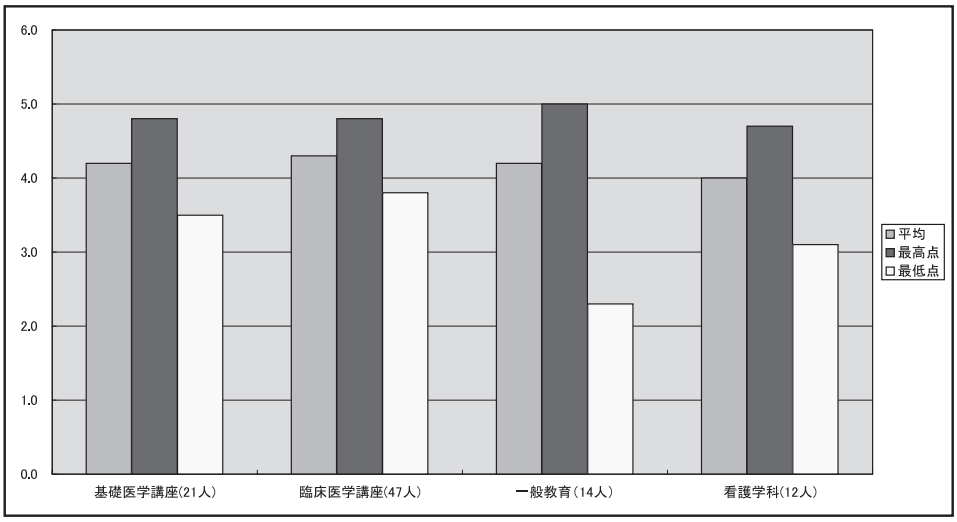
平成23年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

	得																								点
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
人数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3	1	6	4	6	15	10	6	12	9	4	8	4	0	2

（実施人数94名　平均4.2）



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問　この授業は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う（非常に良い）
④　やや思う（良い）
③　どちらとも言えない（普通）
②　あまりそう思わない（あまり良くない）
①　全くそう思わない（良くない）

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問１　事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問２　授業に毎回出席しましたか。 問３　授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問４　授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問５　科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問６　履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問７　各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問８　各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問９　各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10　科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11　科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12　科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13　試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14　この科目は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う（非常に良い）
④　やや思う（良い）
③　どちらとも言えない（普通）
②　あまりそう思わない（あまり良くない）
①　全くそう思わない（良くない）

科 目 名：医学英語ＩＡ（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：121　配付数：112　回収数：111　回収率：99.1％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
4.3	4.7	4.4	4.1	4.5	4.5	4.3	4.4	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

医学英語ＩＡ　担当教員

この授業は、江本が単独で１年間担当しました。授業は、講義と演習を織り交ぜながら行いましたが、みなさん一人一人が、毎回の授業、予習、復習に真剣に取り組んでくれました。授業を通して、１年生のうちに身につけておくべき学習習慣を確立することができたのではないかと思います。多くの建設的なフィードバックに感謝します。これからも頑張ってください。

科 目 名：医学英語ＩＢ（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：111　配付数：103　回収数：80　回収率：77.7％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.4	4.3	3.4	4.2	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.4	4.4	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

医学英語ＩＢ　担当教員

英会話の練習を通して英語運用能力を高め、発信力を強化することに主眼を置いた授業です。23年度は、Gallagher先生とFairweather先生に担当していただきました。Gallagher先生からのコメントを以下に記します。

Being able to communicate in English is a very useful skill for medical professionals. So I hope that students will enjoy English class and do their best to participate and exercise their English skills.

But beyond that, I am very happy to be able to teach so many bright young students who are studying medicine. There is a shortage of doctors and other health professionals all over the world. We need not only more doctors, we need more good doctors. So I hope that all of my students will do their best, not only in English, but in all of their studies, in order that they will be able to give patients the best possible care.

科 目 名：基礎生物学（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：119　配付数：113　回収数：96　回収率：85.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.5	4.2	3.4	4.2	4.1	4.1	4.3	4.0	4.1	4.2	4.2	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

基礎生物学　担当教員

総合ポイントは4.3、「全体としてほぼ満足」という評価で安心しました。この科目では、医学を学ぶ第一歩として、ヒトを中心とした生物学を分子から個体のレベルまで幅広く学習します。学生から、生物学は覚えなければならないことが多く、難しいという声も聞かれます。しかしながら、個々の事象は決して複雑なものではなく、それらをいかにうまく関連づけられるかが理解のポイントになります。質問に対しては時間をかけて丁寧に説明します。もちろん、わかる授業を目指して、さらに工夫を重ねてまいります。

科 目 名：医用物理学（医学科第１学年通年／必修）
履修者数：118　配付数：109　回収数：66　回収率：60.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.4	4.1	2.8	4.1	4.2	4.0	4.2	3.7	3.5	3.8	3.4	3.6	3.6

＊評価に対するコメント

医用物理学　担当教員

科目構成に関する評価で、初めて全て４以上の評価を頂きました。科目内容に関する各項目でも高い評価を頂きました。昨年、反省点に挙げた問13の項目でも0.3高い評価を受けました。結果、総合評価も3.6と物理学関係科目としては高評価を頂きました。残念ながら自己学習の項目の問１（予習）と問４（復習）の評価が依然低いことが気がかりです。また、コメント欄に数学分野に関する厳しい評価を受けました。今後の課題です。担当していただいた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科 目 名：基礎生化学（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：112　配付数：99　回収数：84　回収率：84.8％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.5	3.7	2.8	3.8	3.8	3.8	4.0	3.6	3.3	3.8	3.5	3.9	3.7

＊評価に対するコメント

基礎生化学　担当教員

昨年に比べて全般的に評価が0.1ポイントずつ下がった。今年度は半数の履修テーマで授業担当者が変わったこと、高校やチュートリアルⅠでの既習内容について重複と捉えられた（問６）ことによると推察する。次年度からは学習意欲（問12）を増すために、復習的説明はなるべく希望者のみに時間外に行うようにし、最新の知見の紹介を希望するような意見に応えたいと考えている。一方、予習復習の努力を尋ねた問１、問４での相変わらずの低評価にも関わらず、自由記載で内容が難しいとの意見も残る。しかし、試験の頻回実施などにより各回の難易度は大いに下がり（問13）、本年度4回実施した試験で平均点は全て75％を超えたことから、次年度も同様に分割実施する予定である。

科 目 名：遺伝学（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：119　配付数：114　回収数：59　回収率：51.8％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.6	4.1	3.4	4.1	4.0	4.1	4.3	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

遺伝学　担当教員

各項目の評価が総合評価に近い結果であったことから、改善しなければならない大きな問題点は少ないと推察される。しかし、4.2という総合評価には、まだまだ改善の余地がある。担当教員間での連携をはかりながら、学生の学習意欲や理解度を高める創意工夫を進めたいと考えている。

科 目 名：医学英語ⅡＡ（医学科第２学年通年／必修）
履修者数：112　配付数：27　回収数：24　回収率：88.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.2	4.5	3.3	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.5	4.8

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡＡ　担当教員

この授業は、読解を中心とする課題学習演習形式で、三好が一年間担当しました。テーマを固定し、段階的に語彙レベルを上げることで、語彙処理に要する短期記憶等の負担等を軽減するというモデルで展開し、学術誌レベルの英語の読解ができることを到達目標として設定しました。皆さんは、真剣に課題に取り組み、おおむね目標に到達していたと思います。課題の難易度を上げてほしいという学生さんもいましたので、分量等の調節を行いたいと思います。建設的なフィードバックをありがとうございました。

科 目 名：医学英語ⅡＢ（医学科第２学年通年／必修）
履修者数：110　配付数：65　回収数：64　回収率：98.5％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	3.9	4.2	2.8	3.9	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.1	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡＢ　担当教員

Thank you for your comments. I hope that you will continue to learn English. Beyond Asahikawa Medical University there is a worldwide medical community which is predominantly English. If you keep studying and learning you can be part of that community. In addition you can enjoy the books, art, news and media that are in English. It can make travel more fun. You can make more friends and have more job opportunities.

The best way to learn it is to use it. Talk to your friends in English.
Read English. Listen to English. Write English.

I hope that you will enjoy learning and using English in the future.

科 目 名：機能形態基礎医学（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：127　配付数：124　回収数：103　回収率：83.1％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	3.6	4.0	3.2	4.3	4.1	3.5	4.1	3.7	3.7	3.9	4.2	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学　担当教員

評価の平均値ではほぼ例年通りであった。コメントには、判定基準が厳しすぎるという意見や、日程が過密すぎるという意見が複数寄せられた。評価に関しては、重要な内容をもれなく学ぶという観点から、学生諸君のさらなる努力を期待したい。日程に関しては全体のカリキュラムでの位置づけを検討する必要性は教員側も感じているので、今後検討を進めていきたい。

科 目 名：微生物学（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：124　配付数：122　回収数：102　回収率：83.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	3.4	3.4	2.6	3.8	3.9	3.7	3.9	3.4	3.4	3.6	3.6	3.2	3.5

＊評価に対するコメント

微生物学　担当教員

本教科の平成23年度の授業評価は、数値としてはこれまでの微生物学の評価と同程度でした。22年度の授業評価のコメント等を参考にして、23年度から教科書を指定し、教科書を基本とした試験問題を取り入れましたが、本年度のコメントにも、昨年と同じく「試験が難しかった」との記述が複数ありました。感染症の原因となる病原体に関しては、古典的なものから最先端のものまで含めて、精緻で膨大な知見が集積しています。本授業では、その内の基本中の基本を講義する訳ですが、それでもその量はかなりのものになります。期末試験前に「ちょこちょこっと」勉強しただけでは対応できないのは目に見えています。「難しかった」とのコメントに合致するのが、今回も見られた授業評価の「自己評価」の部分、特に問１と問４の「予習、復習」に関する設問の平均点2.6という数値です。第２学年から更に学年が進むと、授業でこなすべき情報量はもっと増加します。これに対応するためにも、学習態勢の意識的な改善を必要とする学生諸君が存在することを、この数値は示しています。教員として微生物学の講義を「面白くする」ための工夫は更に続けますが、学生諸君も、微生物学の履修要項に記載してある「自学、自習する」積極的な学習態勢の構築に取り組むことを期待します。

科 目 名：寄生虫学（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：121　配付数：119　回収数：101　回収率：84.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	3.7	3.2	3.9	4.1	4.1	4.2	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

寄生虫学　担当教員

総合評価4.0ということで、ぎりぎり合格点かと理解。試験についての評価が分かれていますが、“非常に良い”と“良い”が５割を超えていることから、教員側からの発信はおおむね学生に受け入れられていると判断。中間試験の位置づけ、意義づけについてはもう少し検討が必要かも。特別な予習を求めていませんが、寄生虫病、熱帯病、感染症に取り組んだ研究者の伝記などに目を通すと医学生自身の意識が高まるであろうと期待。

科 目 名：薬理学(医学科２年) (医学科第２学年後期／必修)
履修者数：120　配付数：112　回収数：83　回収率：74.1％

＊評価結果 (平均)

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.8	3.0	3.9	3.9	3.7	4.1	3.9	3.9	3.8	4.0	3.7	4.0

＊評価に対するコメント

薬理学　担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患や病態に使用される薬物について学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。そのすべての分野を網羅することはできなかったが、本講義が高学年での講義の理解の助けになれば幸いである。今後もさらに薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科 目 名：基礎医学特論 (医学科第２学年後期／必修)
履修者数：120　配付数：120　回収数：42　回収率：35.0％

＊評価結果 (平均)

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.2	3.6	2.7	4.0	4.3	4.1	4.3	3.9	3.9	4.1	4.2	4.1	3.7

＊評価に対するコメント

基礎医学特論　担当教員

基礎医学の各講座から１人ずつ，計14名の講師がそれぞれの研究を紹介するというオムニバス形式の科目である.「学習意欲を増すものであったか」の項目が4.2であったことから，研究に対する興味を育むという本来の目的はほぼ達せられたのではないかと思われる．来年度はレポート提出のあり方や評価法について改善していきたい.

科 目 名：腫瘍学１ (医学科第３学年後期／必修)
履修者数：104　配付数：101　回収数：77　回収率：76.2％

＊評価結果 (平均)

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.6	3.9	3.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	3.8	4.0	3.9	4.3	4.1

＊評価に対するコメント

腫瘍学１　担当教員

「腫瘍学」は、選択科目「臨床腫瘍学コース」を発展させた必修科目で、昨年度は第3学年後期に、がんの基礎医学、疫学、生命倫理、画像診断などを中心とした「腫瘍学１」が開講された。科目としては移行期の段階ではあったが、総合評価は4.1で、比較的良好な評価が得られた。コメントの中には本科目のような分野横断的な講義を歓迎し、期待するものがあった。本年度は現在、第４学年前期に「腫瘍学２」として、各臓器のがんの治療法に重点を置いた講義が展開されており、後期には内容をさらに充実させた「腫瘍学１」が開講される予定である。

科 目 名：生体調節医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：104　配付数：103　回収数：36　回収率：35.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.7	4.1	3.9	3.1	3.9	3.8	3.9	4.1	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

生体調節医学　担当教員

生体調節医学は、内分泌・栄養・代謝・腎泌尿器系疾患に関連し、内科学、泌尿器科学、小児科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の各視点から系統的に学習することを目的としている。科目構成評価および科目内容評価は概ね3.8～4.1と学生からも一定の評価が得られていると思われる。総合評価を含め各評点は比較的高得点となっており、内容の充実度を反映しているものと思われる。一方、試験日程が講義日程から離れていることが今後改善すべき点としてあげられており、検討すべき課題として残された。

科 目名：生体防御医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：104　配付数：86　回収数：36　回収率：41.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	3.9	4.0	3.0	3.8	4.1	3.9	4.4	4.0	3.9	3.9	3.9	3.0	4.0

＊評価に対するコメント

生体防御医学　担当教員

生体防御医学は、膠原病、感染症および血液学を中心とした講義で構成されている。
総合評価は4.0であり、昨年度の臓器別・系別講義Ⅲの3.7を超えており、各科・各分野で講義内容の整理・見直しをしてきた成果が出てきたものと思われる。ただ、講義日程の関係で総論が各論より後になってしまうことがあり、指摘もいただいており、今後各科協力してさらなる調整を行いたいと考えている。また、学生自身の評価として、予習・復習が十分に実行できていないという結果は昨年度までと同様であり、不十分な知識習得にならないような姿勢が強く望まれる。一方、学習内容が非常に多いのは間違いない分野であり、教員側もさらにポイントをおさえ、知識習得のしやすい講義内容への改善が望まれ努力したい。

科 目 名：精神・神経病態医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：104　配付数：92　回収数：34　回収率：37.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.4	3.8	2.6	3.7	4.0	3.6	4.1	3.8	3.6	3.7	3.9	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

精神・神経病態医学　担当教員

この講義は、内科、小児科、脳神経外科、放射線医学、精神医学の教員で行われた。学生の総合的評価は昨年（3.7）とほぼ同様のよい評価を受けた（3.8）。学生諸君が自らプレゼンする機会を与えた講義はそれなり評価されていたが、準備する時間に余裕を持たせるように工夫する必要があろう。ところで、本講義コースの定期試験において集団的不正行為がみられため、全員が再試験となった。こうしたきわめて遺憾な事実に対して、大学は学生に対して「警告」を掲示した。今後同様な行為又は規則違反が認められた場合は，厳重な処分が科されることになる。平成23年度において医学科第３学年として在籍した学生諸君には、今回の行為を猛省し，今後二度と不適切な行為を行わないよう望む。

科 目 名：感覚器病態医学（医学科第３学年後期／必修）
履修者数：104　配付数：94　回収数：32　回収率：34.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	4.2	3.3	3.9	3.9	4.0	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

感覚器病態医学　担当教員

講義内容に関して、全項目にわたり平均４点前後であり、”良い”との評価を頂いた。今後も学生に知識を与えるだけの講義ではなく、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の魅力、旭川医科大学の魅力が伝えられるようなインパクトのある講義を行うようにしたいと思う。

科 目 名：臨床感染症学コース（医学科第３学年後期／選択必修）
履修者数：19　配付数：17　回収数：13　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.8	4.4	3.7	4.7	4.1	4.5	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6	4.5	4.5

＊評価に対するコメント

臨床感染症学コース　担当教員

本コースの平成23年度の受講学生は、第３学年19名でした。本コースは今年度からカリキュラムが15コマの選択必修に改正されたことに伴い、感染症予防に関する総論と、結核、エイズ、薬剤耐性菌感染症に的をしぼったコンパクトなコースとして再編成し、配付する国試関連資料についても更新しました。授業評価は、予習に関する問１を除いて、学生諸君に好評価を戴いたと思います。復習に関する問４の平均値も例年より高い値になっている（例年２～３点→今回3.7点）ことは、本コースの内容が、学生諸君の学習意欲の琴線に触れるものであったことを示しているように思います。これを反映して、自由記載欄には「面白い内容が多く、ためになる授業であった」とのコメントが複数寄せられました。一方で、「他の領域の感染症についても聴きたかった。」とのコメントも寄せられましたが、15コマの講義数では、これ以上の内容を盛り込むことは無理と思われます。感染症対策の基盤構築は、医療全体にとって共通の必須課題になっています。今後、更に多くの学生諸君がこのコースを受講してくれることを期待しています。

科 目 名：ニューロサイエンスコース（医学科第３学年後期／選択必修）
履修者数：64　配付数：63　回収数：50　回収率：79.4％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.6	3.9	2.9	4.0	4.3	4.3	4.4	4.0	3.8	3.9	4.1	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

ニューロサイエンスコース　担当教員

今回は受講者数が増えたが、評価としては昨年とほぼ同じ結果であった。コメントでは、肯定的なコメントに加えて、レポートと試験の配点や全体のコーディネートに関する改善を望む声があった。今後の参考にしたい。

科 目 名：睡眠医学コース（医学科第３学年後期／選択必修）
履修者数：22　配付数：19　回収数：14　回収率：73.7％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.7	4.6	3.2	4.4	3.6	4.4	4.7	4.8	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7

＊評価に対するコメント

睡眠医学コース　担当教員

現代社会における睡眠障害への高い関心を背景として、本学において初めて睡眠医学というコースが開設された。学生から総合評価で4.7という高いスコアが示されたことに、教員一同満足している。今後、講義について工夫すべき点は多々あろうが、まずは閉塞性睡眠時無呼吸症候群の講義内容で重複した部分を避け、睡眠医学における薬物療法のテーマを充実させたい。

科 目 名：全人的医療・緩和ケアコース（医学科第３学年後期／選択必修）
履修者数：23　配付数：21　回収数：17　回収率：81.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.9	4.5	3.0	4.5	4.1	4.3	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8	4.4	4.8

＊評価に対するコメント

全人的医療・緩和ケアコース　担当教員

本コースは、緩和ケアというキーワードを通して、全人的医療に必要な医療者の基本姿勢を身つけることを目標としました。個々の知識の伝達よりも、参加者自身が考え、感じることを重視し、双方向性の講義やロールプレイ、グループ討論などの学習形式をとりました。その甲斐あって高い評価を頂き、参加者のレポートを見ると、各人うっすらとではありますが、どんな医師になるべきかイメージを得たようです。次年度以降も内容・教育方法ともにさらにブラッシュアップし、医師としての「マインド」の育成に努めてまいりたいと思います。

科 目 名：漢方医学コース（医学科第３学年後期／選択必修）
履修者数：48　配付数：36　回収数：21　回収率：58.3％
３＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.7	4.1	3.1	4.5	4.6	4.6	4.7	4.6	4.4	4.3	4.7	4.0	4.5

＊評価に対するコメント

漢方医学コース　担当教員

漢方医学コースは本年度新設されたコースです。準備段階から学生さんにアンケートなどに協力してもらい、「学生のニーズに応えた講義」を目標に計画しました。全国的にもめずらしい、古典を省き、臨床に則した15コマの講義です。初年度ということで、どんな学生さんが、どれくらい受講してくれるのか予想もつきませんでしたが、48人の皆さんが受講してくれました。学生の皆さんの評価やレポートを見ると、それなりの成果があったのではないかと考えています。

このコースを履修した学生の皆さんが、医師になったとき、バイリンガルの様に西洋薬と漢方薬を使いこなせるようになること、そしてそれが患者さんの福音になることを願ってやみません。学生の皆さんのご協力に感謝し、漢方の小さな種が育っていくことを期待しています。

科 目 名：感覚器医学の最先端コース（医学科第３学年後期／選択必修）
履修者数：66　配付数：49　回収数：13　回収率：26.5％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.9	4.1	2.7	4.1	4.5	4.5	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.5	4.2

＊評価に対するコメント

感覚器医学の最先端コース　担当教員

本年度は、感覚器医学の基礎・臨床そして最先端の全てを12名の講師がそれぞれの立場から講義された。過去５年間では講義に対する全ての項目で最も良い評価を得る事が出来た。しかしコースの目的が多岐に亘るため、これまでと同様履修目的に関する項目で低い評価をした学生がおり、授業内容に差があったとの感想もあった。今後も臓器別・系別講義との違いを明らかにし、学生にとって興味をもてる有意義な講義となるよう努力したい。

科 目 名：救急・プライマリーケアコース（医学科第３学年後期／選択必修）
履修者数：20　配付数：20　回収数：15　回収率：75.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
4.0	5.0	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8	4.9	4.7	5.0	4.8	4.9

＊評価に対するコメント

救急・プライマリーケアコース　担当教員

本コースは，少人数で，できるだけプラクティカルな講義と，参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し，さらにコマ数も少なくなったため履修内容も昨年度に比べ集約した結果，今年度も非常に高い評価を頂きました。

今後も，プライマリーケアの基礎知識と実際を学ぶことを主眼に構成し，より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科 目 名：臨床医学概論Ⅳ（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：94　配付数：92　回収数：39　回収率：42.4％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.5	3.9	2.6	3.8	3.7	4.1	4.2	4.1	4.1	4.0	4.1	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅳ　担当教員

医学概論Ⅳでは系統別講義から漏れてしまう部分のカバーを目的とし，救急医療を社会的側面と臨床的側面から考えることを目指して開講しております。内容的には系統別講義と重複する部分を見直し，成績評価の試験も系統別講義とは形式を変え，記述式といたしました。救急医療はとりわけ社会性が高く，関連領域を含め我々が取り組むべき課題が山積しております。今後はこの概論を問題提起の場とし，解決の糸口を討論するような内容にしたいと考えております。

科 目 名：症候別・課題別講義（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：94　配付数：61　回収数：26　回収率：42.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	4.0	3.0	3.8	3.5	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.9	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

症候別・課題別講義　担当教員

症候別課題別講義は、旭川医大の臨床講義の３層構造の２層目に相当します。疾患別から、症候別の切り口への転換が、３層目の医学チュートリアルにつながります。ただ、多くの先生が参加するオムニバス講義のため、急な休講や代替などが発生しており対策を考えています。「講義内容の重複が多い」との指摘から平成24年度は講義数が45コマに再編します。よりエッセンスに近い講義が展開できるように連絡を密にしていく予定です。

科 目 名：臨床検査学（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：94　配付数：94　回収数：25　回収率：26.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.6	3.5	2.2	3.6	4.1	3.8	4.2	4.1	3.6	3.8	3.6	3.7	3.7

＊評価に対するコメント

臨床検査学　担当教員

今年度の評価は昨年と同様で、おおむね臨床検査の意義を理解していただいているものと思います。臨床検査になじみが薄く理解がしにくいとの一部指摘がありますが、診断、治療の前にまず利用する検査結果の質を確認することはきわめて大切です。このための検査特有の用語、方法論、システムの最低限は学んでいただきたい。授業は知識も大切ですが、医学医療において遭遇するさまざまな問題を解くための考え方を学ぶ機会と考えていただければ幸いです。

科 目 名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第４学年通年／必修）
履修者数：93　配付数：77　回収数：33　回収率：42.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.2	3.8	2.6	3.9	4.2	4.2	4.4	3.9	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学　担当教員

本講義は宿題等を出すことがなく、その点で評価が低く出ていますが、科目の構成については、例年と同様におおむね良好であったと思います。昨年よりは、難易度、他の講義との重複などの評価が若干低くなっていますが、この点に留意して今後改善していきたいと考えています。本講義は、適切な薬物療法を行う上で、重要な講義ばかりですので、理解しやすさに努めながらさらに定着度の高い授業を目指していきたいと考えています。

科 目 名：加齢・老化と高齢者の医学（医学科第４学年通年／必修）
履修者数：93　配付数：93　回収数：57　回収率：61.3％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.3	3.9	2.8	3.9	3.8	4.1	4.3	4.1	4.2	4.0	3.8	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

加齢・老化と高齢者の医学　担当教員

臓器別ではなくいわば高齢者という年齢という尺度で区分けした臨床医学横断的な分野である。どの臓器別専門診療に関わる医師でも、高齢者診療において共有すべき医学的知識がある。各臓器別講義の内容と一部重複する部分があるかもしれないが、重複して講義される内容は、それだけ重要であることを認識して欲しい。また、臓器別講義の内容を本講義の内容で横断的に理解することは一人の患者を見る全人的医療を実践する上でも役立つことを確信する。

科 目 名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第４学年後期／選択必修）
履修者数：62　配付数：57　回収数：29　回収率：50.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.1	3.6	2.6	3.9	3.9	4.1	4.2	4.2	3.7	3.9	3.4	4.5	3.7

＊評価に対するコメント

生体構造機能蛋白・病態解析コース　担当教員

本年度も応分の評価をいただきました。選択必須の授業では生命現象の不可思議に触れ、リサーチマインドを持って広い視点から学ぶ楽しさを少しでも体得してもらえれば幸いです。一つの項目を色々な角度から見直すことも重要です。ただし講義内容にオーバラップがないよう改善していきたいと考えております。

科 目 名：臨床薬理学コース（医学科第４学年後期／選択必修）
履修者数：32　配付数：29　回収数：17　回収率：58.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	3.6	3.6	2.4	3.5	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	3.5	3.7	3.4	3.6

＊評価に対するコメント

臨床薬理学コース　担当教員

臨床薬理学は、第２学年で学習した基礎薬理学の原理を臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方にその専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科 目 名：EBM・CPCコース（医学科第４学年後期／選択必修）
履修者数：12　配付数：12　回収数：12　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
4.3	4.8	4.8	4.4	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8

＊評価に対するコメント

EBM・CPCコース　担当教員

選択必修コース「EBMoCPCコース」は開講し7回目を迎えた。30コマの中前半をEBMコース，後半をCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。本年度の選択者は12名と昨年の28名から少なくなったが、それまでの学年と同程度の人数であり、個々の学生へ対応が密に行えた。今回の総合評価は4.8とほぼ満足できるものであり、来年以降も同様な構成でコースを進める。紙面を借りて各担当教官と学生諸君の積極的な参加に感謝致します。

科 目 名：臨床遺伝学コース（医学科第４学年後期／選択必修）
履修者数：15　配付数：9　回収数：8　回収率：88.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.1	4.3	4.1	4.8	4.6	4.6	4.8	4.4	4.5	4.5	4.6	4.6	4.8

＊評価に対するコメント

臨床遺伝学コース　担当教員

講義部分の特論とともに、医療面接での結果の説明の導入から、最終的に患者さんに遺伝情報について伝える場合の問題点の討議する「ロールプレイ」、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせの２本立てのメニューで開講しております。一昨年９名、昨年20名、今年15名と少人数ですが、受講後の学生評価（総合評価）は、今年もまた4.8と高い評価を得ており講師陣も授業内容に自信をもっております。来年度は、再び３、４年生の合同開講になることを前提に大きく改変する予定です。

科 目 名：糖尿病・内分泌Up－Dateコース（医学科第４学年後期／選択必修）
履修者数：79　配付数：67　回収数：31　回収率：46.3％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.5	3.7	2.7	3.8	3.8	3.8	4.0	3.8	3.7	3.8	3.5	4.2	3.8

＊評価に対するコメント

糖尿病・内分泌Up－Dateコース　担当教員

糖尿病・内分泌Up－Dateコースでは、基礎から臨床分野の糖尿病をはじめとした代謝疾患や内分泌疾患に及ぶ広い範囲の領域における最先端の医学知識を提供している。学生の出席状況は良好であり（評価4.5）、このコースに対する学生の期待が伺われる。科目内容については昨年同様、高い評価を受けているが、科目構成については昨年度に比べて評価点数が若干低下しており、構成の見直しは重要な課題と思われた。

科 目 名：英語ＩＡ（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：60　配付数：60　回収数：59　回収率：98.3％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.5	4.7	4.1	3.6	4.4	4.3	4.5	4.5	4.2	4.4	4.2	3.9	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

英語ＩＡ　担当教員

この授業は、江本が単独で１年間担当しました。みなさん一人一人が毎回の授業に積極的に取り組んでくれました。英語学習には継続的な努力が必要ですので、これからもぜひ勉強を続けてほしいと思います。多くの励ましのコメントありがとうございました。

科 目 名：英語ＩＢ（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：60　配付数：59　回収数：59　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.4	4.1	2.9	4.0	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.4	4.2	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

英語ＩＢ　担当教員

Some students had difficulty understanding instructions in spoken English. I will try to speak more clearly, in a way students can understand. It is clear many students do not go over the textbook before the class. It's important for students to review the textbook before each class. If students review before the class they will be in a much better position to get more out of the class. Students should also remember that active participation in class activities is very important.

科 目 名：形態機能学（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：60　配付数：58　回収数：55　回収率：94.8％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.2	3.9	3.4	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.1	4.2	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

形態機能学　担当教員

今年度も、試験を３回に分けて行いましたが、比較的難しく、内容が豊富な科目であるにもかかわらず、学生の皆さんは随分良い成績を収めました。一生懸命に勉強したことが伺われます。医学科や各センターの先生方に、特に生理学の分野を、４～６時間ずつ分担して講義して頂きました。分りやすく且つ熱心に教えて頂きました。今回の評価では、「あなた自身について」の項目が３点台でしたが、年々改善されてきています。しかし、予習・復習にはあまり熱心でなく、試験の直前にまとめて勉強する傾向が、依然として見られました。次年度は、さらに分りやすい講義を心がけ、学生の皆さんが、日々意欲的に勉強を続けられるような内容にしていきたいと思います。

科 目 名：代謝栄養学（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：60　配付数：59　回収数：57　回収率：96.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	3.7	3.2	3.9	4.1	4.1	4.2	3.9	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

代謝栄養学　担当教員

代謝栄養学は基礎生化学と栄養学からなりそれらの授業配分は３：２となっている。その理由の大きなものは看護では栄養学の知識が以後の講義においてのみならず現場でも必須であるからである。生化学の素養はその他の専門基礎科目を理解するために重要であるが基礎的な事項、必要最小限に留めている。残念ながら本授業科目には専任の教官がおらず生化学分野は医学科の先生方に、栄養学は外部の先生にお願いしている。外部の先生の時間的な都合もあり３コマ続きの講義の設定を組まざるを得ないが同じ科目の３コマを集中して聞くのは少々つらいかもしれない。限られた時間内で膨大な範囲を細かくカバーするのは不可能であることは明白で、重要なのはむしろ学んだことを基礎として自分で学習することであろう。その際の支援は自身が求めれば各教官から容易に得られるであろう。評価点を見てみると科目の内容や構成については評価２以下の人が居ない、もしくは１人でありほぼ満足出来るものであった。従ってしばらくはこの講義様式を踏襲していくつもりである。一方で予習や復習の項目では点数が低く少しでも時間を費やせば若い頭脳は良く吸収するのに、と残念な思いもある。

科 目 名：病態学（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：60　配付数：60　回収数：55　回収率：91.7％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.0	3.2	2.7	3.7	4.0	3.7	3.9	3.4	3.2	3.5	3.7	3.7	3.6

＊評価に対するコメント

病態学　担当教員

病態学はほぼ全ての臓器と基礎医科学の領域を扱うため内容は膨大であり、授業でカバー出来る量は限られているのでまず原理に重きを置き、それらを臓器の特殊性を加味して応用するという立場を取っています。病態学（病理学）を身につけることは疾病の成り立ちを根拠づけて考えるということであり医療人にとって必要条件の１つです。試験はそのためにあえて難しくしています．再試験を受けることでよりよく身につくはずです。目標はあくまでも「疾病を科学的に理解する」です。

科 目 名：薬理学(看護学科１年)（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：60　配付数：59　回収数：53　回収率：89.8％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	3.7	2.8	4.1	4.3	4.1	4.3	3.9	3.9	3.9	4.1	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

薬理学　担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患や病態に使用される薬物について学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。１年生で薬理学の講義を理解するのは大変だったであろうが、本講義が高学年での講義の理解の助けになれば幸いである。今後もさらに薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科 目 名：感染免疫学（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：60　配付数：59　回収数：56　回収率：94.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.5	2.9	3.9	4.0	3.9	4.0	3.5	3.4	3.6	3.5	3.6	3.6

＊評価に対するコメント

感染免疫学　担当教員

感染症は最もありふれた疾病であり看護の領域でもその予防を含め非常に重要な問題である。それの科学的な理解は実践の場で日々生ずる問題の解決に対して大きな助けとなるものである。習得すべき知識や考え方は多岐にわたるが得られるものは大きい。評価点はおおむね満足出来るものであるが、難解であったと感想を述べてくれた学生がいたが、基礎から理解出来ることをモットーに改善を続けたいと思っている。

科 目 名：疫学・保健統計（看護学科第１学年，編入第３学年後期／必修）
履修者数：70　配付数：54　回収数：54　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.5	3.8	3.6	3.3	3.1	2.9	3.0	3.0	2.5	2.7	2.3	2.6	2.3

＊評価に対するコメント

疫学・保健統計　担当教員

事前に配付した学習シートには、学習すべき内容の要点を図や表にまとめたり、時に空欄を作り、教科書を読んで確認の上、記入するなどの課題を出し、「予習・授業・復習」の定着を目指しました。ところが、小テストで48人もの再試者が出たことには呆れてしまいました。学習シートに沿って「予習・授業・復習」を実行しておれば、至極容易なはずです。現に９割台の得点者もおりました。

科 目 名：対人関係論（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：60　配付数：44　回収数：44　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.4	3.6	3.2	4.0	4.0	3.8	4.1	4.0	3.9	4.0	3.8	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

対人関係論　担当教員

看護ケアでは常に人と人との関係の在り方が問題になります。ケアや援助の質に関連する要因はいろいろありますが、人間関係はケアの大きな前提をなすものです。人間関係は誰もが日常生活においてごく普通に体験することですが、看護サービスを提供する際には「人間関係はとはなにか」や「援助的な人間関係とはなにか」、など意識的にとらえていくことが理解されたと思われました。

科目名：英語ⅡA（看護学科第２学年通年／必修）
履修者数：69　配付数：59　回収数：59　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.3	4.1	3.4	4.0	4.4	4.2	4.4	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

英語ⅡA　担当教員

この授業は、一年間、三好が担当しました。グループによる課題学習を導入するなど、皆さんの英語のレベルにばらつきがある点に注意を払ったつもりですが、物足りなく感じた学生もいたようですね。個人課題とのバランスをうまくとるように心がけるつもりです。苦手意識を克服できるよう、皆さんの興味のあるテーマの中から作成した読解教材は好評だったので、皆さんの後輩の授業でも継続していきます。貴重なフィードバックに感謝します。

科　目　名：英語ⅡB（看護学科第２学年通年／必修）
履修者数：69　配付数：50　回収数：50　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	4.3	4.0	3.6	4.0	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

英語ⅡB　担当教員

Being in a class conducted entirely in English may be a shock for many students. It takes time and patience before you can understand everything. So I am very glad to hear students say that their efforts to understand paid off, and that they were able to significantly increase their ability to comprehend spoken English by the end of the school year.

I know that some students did not like English in junior high school or high school. I try to make my class one to which students will be happy to come. So I am always very pleased to know that students enjoyed our class.

Although my subject is English, it is especially important to me that students in my class develop a positive attitude toward nursing, and will look forward to becoming a skilled and useful member of this vital and honorable profession.

科　目　名：疾病論Ⅱ，Ⅲ（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：59　配付数：57　回収数：56　回収率：98.2％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	3.8	3.6	3.2	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

疾病論Ⅱ，Ⅲ　担当教員

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であってもほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであろうがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。疾病論はカバーする領域が広く講師は医学科の各科の多くの先生方にまたがっている。それぞれの得意分野を講義されており従って内容はレベルが高いと思われる。しかしながら限られた時間内で膨大な範囲を細かくカバーするのは不可能であることは明白で、重要なのはむしろ学んだことを基礎として自分で学習することであろう。その際に教科書を活用し不明な部分は自ら尋ねることでそれへの支援は各教官から容易に得られる。これに関連して少し気になるのは問１と問４の点数の低さである。30分でも復習すれば若き頭脳は完璧に吸収するのに、少々もったいない気がしている。

科 目 名：臨床心理学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：70　配付数：68　回収数：56　回収率：82.4％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.3	3.6	3.2	3.9	4.1	4.2	4.3	4.4	4.3	4.1	4.1	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

臨床心理学　担当教員

「臨床心理学」では、昨年同様、実際の心理面接技法や心理検査の演習を取り入れてきましたが、この点に関しては一定の評価を得られたものと受け取り、今後の講義の中でも継続して行ないたいと思います。

また、テキストを用いていないことが学生の皆さんの予習を困難にしているようなので、参考資料を事前に配布するなどの対応を検討したいと思います。

科 目 名：看護理論（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：69　配付数：66　回収数：30　回収率：45.5％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.7	3.8	3.2	4.2	4.2	4.0	4.3	4.1	3.7	3.8	3.8	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

看護理論　担当教員

看護理論を看護実践に活用することを前提に講義を進め、各自が実習での看護実践を主題とするレポートを作成し、理論と実践をつなげることを体験的に学ぶプログラムにしました。実習後は講義がより理解しやすくなったという感想もあり、後期に開講した効果があると感じています。予習・復習がしにくいようなので、次年度の課題とします。

看護倫理はただ一つの正答を求めるものではなく、討論する過程で様々な意見に触れ、考えることも重要です。看護者に必要な倫理的行動について考えるきっかけとなることを期待しています。

科 目 名：老年看護学Ⅰ（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：59　配付数：58　回収数：57　回収率：98.3％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.3	3.8	3.5	4.0	4.1	3.7	3.9	4.1	4.1	4.0	3.9	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

老年看護学Ⅰ　担当教員

総合評価は、4.1で学生はおおむね満足していたと言える。科目構成、科目内容に対する評価では問７　3.7、問８　3.9であり、各主題がやや偏っていたという評価であった。が、学生の反応を見ながら必要と判断すれば予定を変更して内容を充実させることは当然であるが、バランスを崩しすぎることないようにしたい。問12は3.9でやや低く、今後さらに工夫したい。

科 目 名：小児看護学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：59　配付数：58　回収数：55　回収率：94.8％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.4	4.0	3.6	3.9	4.1	3.8	3.9	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

小児看護学　担当教員

成績は講義終了後の小テスト50％と後期試験50％で評価しています。自由記載には「後期試験の比重を大きくして欲しい」という意見が数人から出ていました。小テストは当日の講義を聞いていれば解けるような出題となっています。また、小児看護学として特に重要な内容については小テストと後期試験の両方で出題しています。何度も想起し、記述することによって知識も積み上げられていくと思いますので、今後もこの方法は継続してゆく予定です。

科 目 名：母性看護学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：59　配付数：58　回収数：52　回収率：89.7％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
3.5	4.3	4.0	3.7	4.1	4.0	4.1	4.2	3.9	4.1	4.1	4.3	3.8	4.2

＊評価に対するコメント

母性看護学　担当教員

科目全体の講義評価に対する学生評価ですが、テストに対する評価が多かったと思います。母性看護学はそれぞれ特徴のある３領域の集合のため、覚えたり考えたりする内容量が多く、今回の評価結果になったのだと考えます。今後はテストの時期や回数について再考し、授業のあり方と共により良くしていきたいと思います。

科 目 名：精神保健看護学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：59　配付数：58　回収数：58　回収率：100.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.5	3.3	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	4.0	3.7	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

精神保健看護学　担当教員

精神疾患の増加に伴い、疾病の回復や心の健康増進、心の発達の促進など精神保健看護の役割はますます増大しています。看護師がコミュニケーションや看護技術を用いて患者や障害者と接することによって、患者の健康の回復への貢献が可能となるよう、また、患者の心の痛みを理解し、向き合っていけるよう看護観を育み、思考力を高めることができるよう、教育にあたっていきたいと考えています。

科 目 名：在宅看護学（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：59　配付数：43　回収数：42　回収率：97.7％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.1	3.6	3.5	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

在宅看護学　担当教員

生活する場で看護を展開する場合、子どももいれば、高齢者もいる、糖尿病のような生活習慣病を患っている方もいれば、脳梗塞後遺症の方もいる、高齢者ご夫婦の世帯もあれば、一人暮らしの方もいる。町の中に住んでいる人もいれば農村地域に住んでいる人もいる。つまり、看護の対象は多様であり、取り巻く環境がひとりひとり違います。その人々が、安心して暮らしていくためにはどうしたらよいのか、あらゆる場面を想定し、柔軟な思考ができないと、その人に合った支援は難しいことでしょう。そのためにも各看護領域からオムニバス形式で講義が展開されました。在宅看護として統合することは２年生の後期のみなさんには難しかったとは思いますが、病院の中の看護と比較しながらその特徴をつかみとってくれたようです。

科 目 名：看護研究（看護学科第３学年通年／必修）
履修者数：68　配付数：68　回収数：64　回収率：94.1％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.4	3.8	3.4	3.3	3.7	3.2	3.4	3.1	2.8	3.2	3.0	3.1	3.0

＊評価に対するコメント

看護研究　担当教員

「研究」という「大学らしい」科目であり、４年生での「卒業研究」、更には「看護現場での研究」の準備でもあります。レベルが高いとの感想がありましたが、単に教えてもらうではなく、自ら学ぶという「大学らしい」勉強法を身に付ける好機です。また、EXCELやSPSSは２年生の「統計学」で練習済みのはずです。原著論文の読解やデータ解析に関するガイドを冊子として配付しましたが、これが分かり易かったとの感想があり、また論文を読むトレーニングが良かったとの感想もありました。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問１　事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問２　実習（演習）に毎回出席しましたか。 問３　実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問４　実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問５　実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問６　学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問７　指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問８　指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問９　実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10　事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11　実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12　実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13　課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14　実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15　実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16　安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17　学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18　この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う（非常に良い）　④　やや思う（良い）
③　どちらとも言えない（普通）　②　あまりそう思わない（あまり良くない）
①　全くそう思わない（良くない）

科 目 名：医用物理学実習（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：112　配付数：112　回収数：88　回収率：78.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.9	4.7	4.2	4.7	4.1	4.0	3.8	4.3	4.5	4.0	3.9	3.5	3.7	4.0	4.2	4.0	3.8

＊評価に対するコメント

医用物理学実習　担当教員

全体的に昨年度の評価を上回りました。中でも問３の実習への参加意識が4.7（昨年は4.3）へ、問14の今後の学習意欲に関しては3.7（昨年は3.1）へと改善したことは喜ばしいことです。実習テーマの改善が功を奏したと思われます。また、ここ数年レポート課題が問題となっていました。今年度からは、一課題当たりのレポートの総量をＡ４程度と制限し、まとめる内容にも制限を加えたところ（図・表は別）問13の評価が3.5（昨年は3）へ改善しました。問１の予習に関する評価も3.8（昨年度までは3.3前後）へと改善したことも朗報です。一連の評価の上昇は、実習テーマ・内容の改善と課題の質・量の改善が一体となっているのではと推測しています。

科 目 名：統計学実習（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：118　配付数：89　回収数：73　回収率：82.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.8	4.3	3.9	4.2	3.8	3.5	2.8	3.4	4.1	3.7	3.8	3.8	3.5	4.0	4.2	4.1	3.7

＊評価に対するコメント

統計学実習　担当教員

今年度の実習は，シラバスの作成時期と教員の着任に時差があったために，授業内容が一部変更されて行われた。そのため医学系統計学と数学系統計学の混在した状況が生じ，受講生には大変ご迷惑をおかけしました。次年度に向けて，ご指摘頂いた問題点も含め実習内容の改善に取り組んでおります。学年が進みましても，統計学を含めた数的処理技術等に関する問題につきましては，いつでもお尋ねください。

科 目 名：心理・コミュニケーション実習（医学科第１学年後期／必修）
履修者数：112　配付数：110　回収数：84　回収率：76.4％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.4	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.8	3.7	3.4	3.7	3.4	3.5	3.7	3.9	3.7	3.4

＊評価に対するコメント

心理・コミュニケーション実習　担当教員

受講者自身についての評価では、出席・態度についての評価が高いことから（3.9－4.4）、学生は実習に対してかなり熱心に取り組んで いたようである。また、実習全体の計画や内容等についての評価は、ほとんどの項目が「普通」から「良い」の範囲（3.4－3.8）であり、一定の評価が得られた。また、環境や人員についても、3.6から3.8と一定の評価が得られた。しかし、全体の満足度の評価は3.4であり、さほど高い評価は得られなかった。コメント欄では、前半の心理コミュニケーション関係の実習を、良心や対人的態度の薫陶や、コミュニケーション・スキルの本格的な獲得の点から、高く評価する声が見られた。しかし、後半のコミュニケーション基礎論については、ガイダンスや内容等に関する建設的なコメントが多く寄せられた。今後は、これらを参考にしながら、内容の改善に取り組んでいきたい。

科 目 名：形態学実習（医学科第２学年後期／必修）
履修者数：121　配付数：119　回収数：111　回収率：93.3％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.7	4.6	4.5	4.7	3.9	4.4	4.1	4.4	4.5	4.3	4.2	4.1	4.5	4.2	4.4	4.5	4.5

＊評価に対するコメント

形態学実習　担当教員

ほぼ例年通りで、良い評価を受けたと考える。コメントでは教員の数、内容の多さ、実習環境（寒い）といったことに関して改善を求める声があった。学生数の増加に十分な対応が難しく、担当教員の裁量ではすべてを改善することは難しいが、改善すべき点は改善していきたい。

科 目 名：社会医学実習（医学科第４学年後期／必修）
履修者数：94　配付数：91　回収数：38　回収率：41.8％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.8	4.6	4.3	4.5	4.5	4.3	4.1	3.9	4.3	4.3	4.5	4.1	4.1	4.1	4.5	4.4	4.2

＊評価に対するコメント

社会医学実習　担当教員

健康科学と法医学が担当する本実習は今年度で最後となる。例年と同様に、小グループでの個別実習とプレゼンテーションによる報告会を行った。学生の精力的な実習参加とプレゼンテーションへの取り組みが見られた。学生からは、「実習テーマにより発表の質に差が現れた」との意見もあったが、各学生が様々な実習に取り組み、発表会にて体験を分かち合うことは非常に有意義であったと考える。授業評価の評点は概ね４点以上であり、学生サイドからの評価は好評であったと言えよう。

科 目 名：自然科学実験（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：60　配付数：59　回収数：56　回収率：94.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.9	4.6	4.3	4.6	4.3	4.1	4.2	4.2	4.3	4.0	4.0	3.6	3.7	4.2	4.4	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

自然科学実験　担当教員

本年度の総合評価は4.2と一応満足できるものであったが、具体的項目の問13及び14では3.6及び3.7と低評価であった。実習後のレポート作成を負担であったとか、実習テーマに動機付けが不充分なものがあったと感じた学生が多かったためと推察される。これらの問題点改善のため、さらに創意工夫を重ねたい。

科 目 名：生体観察実習（看護学科第１学年後期／必修）
履修者数：60　配付数：58　回収数：55　回収率：94.8％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.7	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.1	4.2	4.3	4.0	4.2	4.0	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

生体観察実習　担当教員

今年度は、７項目の実習を、４グループ総当り方式で実施しました。医学科の先生方には、練達の指導力を発揮され、楽しく実習をリードして頂きました。臨床検査医学の先生にも、今年から一項目の実習を指導して頂きました。学生も、比較的リラックスして実習に参加し、誰も脱落者が出なかったのは幸いでした。中には、かなり良く勉強した跡が伺えるレポートを提出した学生も居ました。総じて、学生の皆さんは実習が好きなようで、比較的良い評価を頂きました。今後も、実習の環境を整え、充実した内容になるように心がけたいと思います。

科 目 名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第１学年通年／必修）
履修者数：60　配付数：59　回収数：56　回収率：94.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.6	4.4	4.5	4.5	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.1	4.2	4.0	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰ　担当教員

すべての問いで4.0以上と大変高い評価を得ました。これは学生の皆さんが真摯に学習に取り組んだ結果と受け止めています。自由記載では、教員間の連携についての記載が複数ありました。演習に関しては、教員間で事前に打ち合わせを行っています。しかし、その場の状況によりうまく意思疎通ができない場合があったのではないかと考えます。疑問や不明なことがありましたら、なるべく早い時期に専任教員に質問してください。

科 目 名：実践看護技術学Ⅰ（看護学科第３学年通年／必修）
履修者数：58　配付数：56　回収数：25　回収率：44.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.9	4.3	4.1	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.4	3.6	3.6.	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅰ　担当教員

実践看護技術学Ⅰの演習は、健康障害を起こしている対象者の事例を設定し、既習の看護技術や知識をその事例でどう応用するかを中心にグループで学習しています。そのため既習の技術や知識が身についていない学生がグループに含まれていると、基本的技術の確認に終わってしまうため、問11、問12が3.6点程度となっていると考えられます。

資料の活用は4.4点と高いので、準備の内容に演習で使用する既習技術などを明示するなど効率よく演習ができるように工夫していきたいと思います。

科 目 名：実践看護技術学Ⅲ（看護学科第３学年通年／必修）
履修者数：69　配付数：68　回収数：48　回収率：70.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.8	4.2	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	4.0	3.9	3.7	3.9	3.8	3.8	4.1	4.1	4.1	4.0

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅲ　担当教員

総合評価は4.0であり、おおむね学生は満足しているといえる。大きい項目で見ると演習計画はやや評価が低く、演習環境はやや評価が高かった。

問ごとに見ると演習によって技術が十分に習得できたかが3.7と最も低かった。技術の習得にかけられる時間や70名の学生を2～3人の教員で指導せざるを得ないので、教員数のことも含めて、より密度の濃い演習を実施するための方策が今後の課題である。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問１　実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問２　指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問３　実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問４　実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問５　指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問６　教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問７　受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問８　カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問９　教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものでった。 問10　安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11　実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12　この実習は全体として満足できるものであった。

⑤　強くそう思う（非常に良い）
④　やや思う（良い）
③　どちらとも言えない（普通）
②　あまりそう思わない（あまり良くない）
①　全くそう思わない（良くない）

科 目 名：看護過程論実習（看護学科第２学年後期／必修）
履修者数：61　配付数：55　回収数：28　回収率：50.9％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.2	3.6	3.9	2.4	4.0	3.9	4.0	3.6	3.3	4.2	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

看護過程論実習　担当教員

回収率が50.9％とこれまでにない低値であり、驚いています。昨年度と実習目的・記録の量ともに変更はありませんが、記録の量が不適切という評価が多かったです。実習記録は目標達成のため必要な学習であることは理解していただくとともに、学習困難な状況があれば担当教員に直接相談してもらいたいと思います。なお、みなさんの努力の結果、例年と比較して良い成績が収められていたのでお伝えします。

科 目 名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第３学年後期／必修）
履修者数：59　配付数：58　回収数：40　回収率：69.0％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.3	4.1	4.2	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅰ　担当教員

「成人看護学実習Ⅰ」は、従来、第４学年で３週間の実習として実施してきた慢性疾患をもち生涯コントロールを要する対象者、あるいは人生の終焉を迎える終末期にある対象者の看護を行う実習を、2009年カリキュラムにより第３学年で行うものです。１グループ４～５名の学生が２週間、３病棟で実施しました。病気とともに生きている慢性期や終末期にある対象者の理解を深めるため、発達課題や社会的役割などの心理・社会的側面を加えた「アセスメントガイドライン」「セルフケア・アセスメントシート」はそのまま活用し、対象者のセルフケア能力に焦点を当てた看護支援について実践を通して学ぶことを期待しています。また、外来機能実習と同時期に実施していますので、対象者の理解および退院後の療養支援への理解が深まることも期待しています。

学生評価は全項目の平均値が4.1で、「全体の満足度」は4.2でした。指導教員や実習指導者からの助言、カンファレンスについては4.0ですが、さらに充実を図っていきたいと思います。

科 目 名：外来機能実習（看護学科第３学年後期／必修）
履修者数：58　配付数：58　回収数：36　回収率：62.1％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.5	4.6	4.1	4.7	4.7	4.6	4.1	4.4	4.5	4.5	4.6	4.7

＊評価に対するコメント

外来機能実習　担当教員

「外来機能実習」は2009年カリキュラムによる新規の実習で、今年度から開始されました。実習の目的は、①外来を受診する成人期にある対象者の健康障害を理解し、対象者に必要な看護支援ができるための能力を養う、②保健医療チームにおける看護の役割を理解し、継続看護を実践するために必要な能力を養うことです。具体的には、第３学年が９月下旬から８週間をかけ、１グループ７～８人の学生が各１週間（各部署に１～２名でローテーション）、外来を受診する成人期の対象者へのインタビュー、点滴センターにおけるがん化学療法および内視鏡検査を受ける対象者への援助、専門外来における看護支援、入退院センターや地域連携室の見学、チームによる回診への同行などを行いました。年度初めから企画し、主に外来部門の方々のご支援のもと、実際の看護場面の見学や説明を受け、学生からは「１週間の短期間であったが、外来のほとんどの所を見ることができて視野が広がった」などの意見もありました。また、ご自宅で療養をしながら通院している対象者の理解と、さまざまな看護支援について多くの学びがあったと思います。

学生評価は、12項目の平均値が4.5であり、「全体の満足度」は4.7と高ポイントでした。今後は、臨床の方にご負担をおかけしたオリエンテーションの方法などの改善を含めて内容の充実を図っていきたいと思います。

科 目 名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第３学年後期／必修）
履修者数：58　配付数：58　回収数：42　回収率：72.4％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.0	4.0	4.2	4.5	4.0	3.9	4.2	4.1	4.2	4.4	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰ　担当教員

本実習の目的は、健康な小児の成長・発達を理解し、保育に関する基礎的な知識と技術、態度、さらに、子育て時期にある家族が抱える問題と支援について学ぶことです。実習場所は保育所、実習期間は１週間です。

学生の評価は4.0前後で、概ね良好でした。現代の学生は、社会の少子化、核家族化により子どもと接する機会が少ないままに成長しています。今回の実習は、健康な子どもと家族や社会の役割について理解する貴重な学習体験になったのではないかと考えます。

科 目 名：地域保健看護学実習Ⅰ（看護学科第３，編入４学年前期／必修）
履修者数：69　配付数：69　回収数：34　回収率：49.3％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.3	4.3	4.5	4.3	4.5	4.6	4.1	4.5	4.6	4.4	4.6	4.5

＊評価に対するコメント

地域保健看護学実習Ⅰ　担当教員

３学年後期、市町村で２週間行う実習である。目的は、地域で生活する個人、家族、集団、地域全体を対象とした地域保健・看護活動のあり方を考え実践できる基礎的能力を養うことである。実習、９月、10月、11月にわたり、学生は上川町・鷹栖町・当麻町・東神楽町・上富良野町・富良野市に交通機関を利用し出向いた。教育効果をねらった一貫させた教育プログラムの基に実習への強い動機付けをはかるため実習前には町の地区視診（地区診断）、看護技術演習・実技試験を行った。教育体制として恒例の実習指導者との実習評価会と実習打合せ会義を行い教員と実習指導者とで綿密な実習準備を行った。

今年度初の市町村２週間の学生評価は、4.5とこれまでにない高得点であった。受け持ち患者の看護の難易度が4.1と最低点であったが、学生の成長過程がみえて看護実践力が顕著に向上し実習単位を増やすことの効果が判明した。教員・指導者共々緊張の連続であったが、学生自身が意欲的に実習に取り組んだ成果と思われる。学生には保健師の役割・機能を体感でき満足感がみられた。

科 目 名：地域保健看護学実習Ⅱ（看護学科第４，編入４学年前期／必修）
履修者数：69　配付数：69　回収数：57　回収率：82.6％

＊評価結果　（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.0	4.2	3.9	3.8	4.0	4.1	3.8	4.0	4.2	4.3	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

地域保健看護学実習Ⅱ　担当教員

目的は、公衆衛生行政機関としての保健所の機能・役割を学ぶとともに公衆衛生にかかわる看護職の機能・役割を理解する、である。実習施設は、北海道庁から言い渡された上川保健所と旭川市保健所であった。保健所の実習指導者に大学まで来て頂き２回の実習打合せ会議を開催し、その後も詳細に連携を取りながら実習マニュアルに基づき学生が実習に興味・関心が持て主体的に取り組めるように工夫した。

その結果、記録・提出物の量の適切さが3.8、受け持ち患者の看護の難易度3.8であったが全体としての満足度は4.1と高得点であった。今後も学生の主体性を尊重した満足できる有意義な実習を検討し続けていくことが必要である。

留学助成制度を利用してアメリカの大学病院へ

医学科第５学年　天　野　太　史

私は実際のアメリカの臨床現場・医学教育現場を体験したいと考え、本学の留学助成制度を利用し、野口医学研究所主催のフィラデルフィアのトーマスジェファーソン大学（TJU）病院における病院実習に参加いたしました。

研修の内容は大きく３つに分けられると感じました。１つはTJU病院の臨床チームの一員に加わり、実際のアメリカの医療現場を体験すること。２つはTJUのSimulation Lab等の設備を見学し、実際にそれらの設備を用いてアメリカの医学生が行っている医学教育を体験すること。そして３つは毎日の昼食会、夕食会にてTJUの先生方からアメリカの医療についてお話を伺うということです。研修プログラムは朝から夜まで様々な予定が詰まっており、アメリカの医学生と語り合う機会もあり、非常に充実した内容でした。

研修では日本の病院実習では見ることの出来ない、大変多くの事を学ぶ事が出来ました。例を挙げますと、１．病院実習における医学生の業務に対する関わりの違い、２．プレゼンテーション・議論重視のアメリカの医師教育文化、３．家庭医・腫瘍内科医などの日本にはまだ根付いていない診療科、４．国民皆保険ではないアメリカの医療に関わる諸問題とそれらに対する医療側の対応、５．Sickle Cellによる血流障害等の日本では稀な疾患、等々、日本の医療現場とはまったく異なったものに触れる事ができ、医療者として非常に見識が広がりました。

特に印象に残ったのはアメリカの医学生の臨床能力の高さで、彼らは研修医と見間違う程に堂々と、臨床チームの一員として業務に当たっていました。自分もこれからの日本における病院実習にてアメリカを意識したPracticalな実習を行う努力を続けたいと感じました。

本制度は私にとって非常に有り難く、素晴らしい機会を与えて頂きました。この経験をもとに日本の医療によりよい影響を与えられる医療者になるべく、より一層の努力を続けて行きたいと考えます。本制度の寄附者、運営者の皆様に心より御礼申し上げます。

医学生のための英国短期留学を終えて

医学科第６学年　徐　　悦

私は、2012年３月に一か月間、日本医学生教育振興財団「医学生のための英国短期留学」プログラムの派遣生として、４週間にわたりニューキャッスル大学病院にて臨床実習をさせていただきました。その際に、本学の留学助成制度を利用して、20万円補助していただきました。このプログラムは、20年以上前から行われており、受け入れ先では留学全体の担当医師と回る診療科で各々担当医師がおり、事前のスケジュール調整や現地での要望や質問に常時対応してくださいました。

医療面における英国と日本の違いは、医療水準というよりは医療に対する考え方だと感じました。日本では、患者が徹底的な検査や治療を求める傾向が強いのは医療従事者の方であれば皆感じていると思います。一方、英国では患者が医師に求めるのは、最小限の治療と症状緩和だというように感じました。このことは、GP（General Practitioner）というシステムにも反映されています。興味深いのが、英国では国民の医療費が全て無料なだけでなく、GP含め病院が全て公立で、医師が経営を気にすることが全くないという点でした。このように自国の医療と他国の医療を対比する経験を通じて、今後の医療界において、国際的な視点を持つ大切さに気付かされました。

たった一か月間の留学ではありましたが、日本での臨床実習の一か月間よりも遥かに内容の濃いものでした。限られた期間でできるだけ多く吸収しようという思いが原動力となり、自分から積極的に問診やプレゼンなどに挑戦しました。慣れた環境から離れることで、自分自身の長所や短所を客観的に見つめ直し、将来についてじっくり考え直すとても良いきっかけとなりました。

最後に、この留学を応募、参加するに当たってお世話になった学年担当の鎌田先生、英語の三好先生、学生支援課の方々、そして海外留学生助成金制度を設けてくださった吉田学長ならびに寄付者の方々に多大の感謝を申し上げたいと存じます。

教　員　の　異　動

H24.3.31	定年退職	医学部（化学）	教　授	中　村　正　雄
H24.3.31	定年退職	医学部寄生虫学講座	教　授	伊　藤　　亮
H24.3.31	定年退職	医学部看護学講座	教　授	北　村　久美子
H24.3.31	辞　　職	医学部看護学講座	教　授	稲　葉　佳　江
H24.3.31	辞　　職	病院薬剤部	教　授	松　原　和　夫
H24.3.31	辞　　職	医学部外科学講座（消化器病態外科学分野）	准教授	河　野　　透
H24.3.31	辞　　職	病院第二外科	講　師	星　　智　和
H24.3.31	辞　　職	病院泌尿器科	講　師	北　原　克　教
H24.3.31	辞　　職	病院産科婦人科	講　師	堀　川　道　晴
H24.4.1	昇　　任	医学部薬理学講座	准教授	結　城　幸　一
H24.4.1	昇　　任	医学部健康科学講座	准教授	伊　藤　俊　弘
H24.4.1	昇　　任	医学部外科学講座（消化器病態外科学分野）	准教授	谷　口　雅　彦
H24.4.1	昇　　任	医学部（生物学）	准教授	日下部　博　一
H24.4.1	昇　　任	病院第二外科	講　師	小　原　　啓
H24.4.1	昇　　任	病院第二外科	講　師	千　里　直　之
H24.4.1	昇　　任	病院産科婦人科	講　師	西　脇　邦　彦
H24.4.1	昇　　任	病院周産母子センター	講　師	加　藤　育　民
H24.5.1	昇　　任	医学部整形外科学講座	教　授	伊　藤　　浩
H24.5.17	昇　　任	医学部看護学講座	教　授	藤　井　智　子
H24.5.17	昇　　任	医学部看護学講座	教　授	阿　部　修　子
H24.5.17	昇　　任	医学部看護学講座	教　授	升　田　由美子

医大祭2012“AMU's×AMUse”開催に向けて

旭川医科大学大学祭実行委員会
実行委員長　小　林　大　太

例年に無く雪の多かった冬、雪解けの遅かった春を過ぎ、暖かい季節がようやくやってまいりました。GWやお花見などの楽しい行事も過ぎ、次なる楽しみの医大祭が近づくこの季節、私達実行委員は、準備により一層力が入っています。

今年度は、６月９日（土）、10日（日）の２日間で医大祭を開催する運びとなりました。テーマ“AMU's×AMUse”には「医大祭に参加する全ての人が楽しめる」という意味が込められています。私達、医大祭実行委員会ではご来場頂く皆さま、医大教職員の皆さま、学生の皆様等、「皆が楽しめる」を常に念頭に置きながら準備を進めてきました。例年同様の楽しい企画を更にパワーアップさせ、新企画も加え、準備を進めておりますので医大祭当日、皆さまの笑顔一杯の表情を楽しみにしています。

以下、当日の目玉企画について紹介していきます。

「医学展・健康チェック」のコーナーでは昨今、ますます注目を浴びている“ウェルネットリンク”を活用し、皆様の健康生活のお手伝いをするとともに、“旭山動物園”との合同企画として旭山動物園の職員の方にパネルを作成していただいております。「動物に学ぶヒトの生き方」として私たち自身の生き方を考えるきっかけとなるパネルとなっています。私達もとても楽しみにしている企画ですので是非足をお運びください。

９日（土）には毎年恒例の「講演会」がございます。今年度はテレビ番組「水曜どうでしょう」等で知られるCREATIVE OFFICE CUE社長の鈴井貴之さんにお越しいただきます。「ミスター」として親しまれる鈴井さんのお話をお楽しみに。

10日（日）には楽しみにしている方も多いであろう「お笑いライブ」が行われます。今年は狩野英孝、響、スギちゃんというメンバーにライブをして頂きます。楽しい事間違いなし、そして今年のテーマAMU's×AMUseにおいて欠かすことのできない企画の１つですのでお見逃しなく。

また、今年度の医大祭では「ロビーコンサート」という休憩できるスペースにて音楽などを楽しんで頂ける企画も用意しております。少し休みたくなった、そんな時はお立ち寄りください。

このように皆様に楽しんでいただける内容盛りだくさんでお待ちしておりますので是非笑顔いっぱいでご参加ください。